

国家戦略特区等ワーキンググループ ヒアリング（議事録）

（開催要領）

- 1 日時 令和8年8月6日（木）13時45分～14時42分
- 2 場所 永田町合同庁舎1階 第3共用会議室（オンライン会議）
- 3 出席

＜WG委員＞

座長	中川 雅之	日本大学経済学部教授
座長代理	落合 孝文	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長・シニアパートナー弁護士
委員	安念 潤司	中央大学名誉教授
委員	大槻 奈那	名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科教授 ピクテ・ジャパン株式会社 シニア・フェロー
委員	澁谷 遊野	東京大学大学院情報学環准教授
委員	堀 真奈美	東海大学健康学部教授

＜諮問会議議員＞

議員	本田 桂子	早稲田大学商学学術院 大学院経営管理研究科教授
----	-------	-------------------------

＜自治体等＞

上野 庸介	帯広市 市長
小林 伸行	帯広市 農政部長
郡谷 亮	帯広市 農政室長
中渡 久哉	帯広市 農政課長
鷺北 博敬	帯広市 農政課特区推進主幹
今野 雅裕	更別村 企画政策課 参事
加納 孝之	北海道 副知事
笹森 穰	北海道 総合政策部地域創生局 地域創生局長
野口 正浩	北海道 農政部生産振興局 食の安全・みどりの農業推進監
鈴木 章代	北海道十勝総合振興局 局長
森山 桂一	北海道十勝総合振興局 産業振興部長
佐藤 禎稔	北海道国立大学機構 帯広畜産大学名誉教授
前塚 研二	十勝農業協同組合連合会 農産部次長

＜事務局＞

高橋 謙司	内閣府 地方創生推進事務局 局長
橋本 真吾	内閣府 地方創生推進事務局 次長
小山 和久	内閣府 地方創生推進事務局 審議官

松本 修一 内閣府 地方創生推進事務局 参事官
佐藤 弘毅 内閣府 地方創生推進事務局 参事官

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事 十勝AI農業特区について
- 3 閉会

○松本参事官 では、定刻になりましたので、「国家戦略特区等ワーキンググループヒアリング」を開始いたします。

本日の議題は、「十勝AI農業特区」の区域指定に関する自治体等ヒアリングということで、帯広市様、更別村様、帯広畜産大学様、十勝農業協同組合連合会様、北海道庁様、十勝総合振興局様にオンラインにて御出席をいただいております。

本日のヒアリングと資料及び議事につきましては、9月に想定されております国家戦略特別区域諮問会議で審議されるまでの間をめぐるといたしまして、非公表とさせていただければと考えておりますが、中川座長、よろしいでしょうか。

○中川座長 結構です。

○松本参事官 ありがとうございます。

それでは、以降は中川座長、よろしくお願いいたします。

○中川座長 それでは、関係者の皆様、お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

早速ですが、本日のヒアリングを開始いたします。

本日は、国家戦略特区として目指す取組の全体像について、帯広市の上野市長から御説明をいただきます。

上野市長、まずはよろしくお願いいたします。

○上野市長 よろしく申し上げます。帯広市長の上野です。

本年3月に行った十勝19市町村の連名による「十勝AI農業特区」の提案に伴い、去る5月28日のワーキンググループヒアリングでは、有識者の委員の皆様提案説明と質疑応答の場をいただき、貴重な御指導をいただきました。心より感謝申し上げます。また、先月9日には、高市総理から黄川田大臣に対して、AI農業特区の創設へ向けた検討の加速化を指示していただき、同月30日には、北海道と共に、十勝19市町村にて黄川田大臣に対し、特区創設に向けた要望を行ったところです。大臣からは、十勝における取組が農業の国際競争力を強化する上で重要であり、特区創設に向けて積極的に検討するとの前向きなお言葉をいただき、大変光栄に感じております。

このたびの提案事項については、ここがスタートであり、今後も地域と連携しながら、地域課題の解決に向けて、十勝一丸となってAI農業特区をさらに進化させてまいります。

本日は、十勝AI農業特区の実現に向け、改めて御審議のほどよろしくお願いいたします。
それでは、十勝AI農業特区構想について御説明いたします。

1枚おめくりください。

まず、構想の概要です。十勝19市町村がそのポテンシャルを生かして目指す姿は、右側にご覧のとおり、AI農業研究の拠点化と、AI農業の開発・実証、実装環境の整備を通じたAI農業先進地の実現です。この実現に向けて、国家戦略特区制度における制度改革提案を中心に多くの取組を進めているところです。

もう1枚おめくりください。

1市16町2村から成る十勝地域は、広大な大地と恵まれた気候を生かし、我が国随一の食料基地として高品質な農畜産物を国内外に安定供給しています。特に約3300億円に上る十勝の農業産出額は、都道府県との比較で8番目に匹敵するとともに、カロリーベースの食料自給率は約1,300%を誇っています。

1枚おめくりください。

十勝は、従来から大規模専業経営を中心とする農業構造を確立するとともに、先端技術も先駆的に導入するなど、新しい技術を積極的に導入する気風があるほか、農業の研究機関や農業機械メーカーが集積するなど、新しい技術を主体的に生み出す力を有しています。実際に管内では、ロボットトラクタが46台導入されているほか、無人バスのレベル4公道走行やドローン物流など、AI、自動化技術の実証が各地で展開されており、開発・実証フィールドとして最適な地域であると考えています。

1枚おめくりください。

このようなポテンシャルを有する十勝19市町村が行う構想の実現に向けた取組について御説明いたします。

まず、AI農業の開発・実証、実装環境の整備に資する取組です。AI農業の開発・実証、実装の加速化を図るためには、安全性などのリスク回避を前提として、手続や基準などの規制緩和の推進を図りながら、開発者や農業者の投資負担の軽減を図るなどの環境を整備することが必要です。このような観点で踏まえ、本構想では、規制緩和の推進や新たな仕組みづくり等の取組を積極的に推進します。

1枚おめくりください。

AI農業研究の拠点化に資する取組です。十勝地域においては、農業分野の開発・実証に当たって、研究機関や企業との連携体制が構築されています。これに加えて、本構想を通じて、AI分野の知見を有する工業系の研究機関やテック企業に参入していただくことにより、AI農業の開発・実証、実装の加速化を図っていきたいと考えています。

1枚おめくりください。

今まで御説明した取組については、十勝19市町村や農業団体、大学、研究機関等により構成される2025年12月に設立された「フードバレーとかち推進協議会 農業部会」を通じて、積極的な推進を図っていきます。

1枚おめくりください。

今までの御説明の参考として、十勝の潜在力や目指す姿を改めてまとめさせていただいております。昨今の経済・社会情勢や国の動向も踏まえ、3つ目のポツになりますけれども、そこにありますとおり、革新的で省力的なAI農業技術等の先端技術の研究・開発や社会実装の加速化等を通じて、農業の国際競争力の強化につなげていく必要があると考えています。そこで、十勝19市町村は、その高いポテンシャルを生かし、最後のポツになりますが、産学官一体となったAI農業の推進を核として、革新的なAI農業技術の開発・実証、実装環境の整備やAI農業研究の拠点の形成を図る、農業の国際競争力の強化に資するプロジェクトを推進し、これからの国内、そして世界の農業を牽引する「AI農業の先進地」を目指していきたい考えです。

1枚おめくりください。

十勝AI農業特区構想における具体的な取組一覧です。本取組は、AI農業研究の拠点化とAI農業技術の開発・実証、実装環境の整備に向けて、先ほど御紹介した推進協議会等を中心に検討、推進が行われており、AI農業の実証フィールドとして、実証の展開もしていきます。

1枚おめくりください。

個別の規制・制度改革事項について御説明いたします。2026年3月から4月において行われた集中募集において、十勝19市町村が提案主体となり、計11項目にわたる規制・制度改革提案を行い、7月開催の諮問会議までに全ての対応方針が決定されました。具体的には、措置済み・年度内着手の項目が6件、年度中に措置予定が4件など、規制・制度改革についても順調に推移しております。

具体的な事項を幾つか御紹介しますと、本ワーキンググループでも御議論いただきましたロボットトラクタの公道自動走行の社会実装に向けた環境整備として、2026年度より段階的に実施する実証実験と並行して、国において特例措置の枠組みに関する検討を行っていただく予定のほか、次のページにございます通信環境の充実やドローンの使用促進に関する規制・制度改革を活用した取組についても、必要に応じて国と連携を図りながら、積極的に進めていきます。

詳細については、参考資料もつけさせていただいておりますので、適宜御参照願います。

1枚おめくりください。

続きまして、特区指定基準との適合性について御説明します。

まず、ア) 区域内における経済的社会的効果については、極めて高い農業産出額や食料自給率を誇る十勝の農業生産性の向上、生産力の強化などが図られることにより、大きな経済的社会的効果。

イ) 国家戦略特区を越えた波及効果については、十勝の「AI農業の先進地」としての実証、実装等の取組は、全国の農業の約4割を占める中山間地域をも含む全国的な農業の課題解決や経営の効率化にも資するものであり、全国的な経済的社会的効果が見込まれるほか、国内の食料生産基盤の強靱化や、拡大する海外の食料市場を視野に入れた生産等の観点から、我

が国の農業の国際競争力の強化への大きな寄与。

ウ) プロジェクトの先進性・革新性等については、これまでの農業を変えていくようなさらなる高効率化、省人化に資する先進的な農業の実現に向けロボットトラクタの公道走行の促進やドローンの使用促進をはじめとする規制・制度改革を通じた取組の推進といった点で該当するものと考えております。

1枚おめくりください。

続きまして、エ) 地方公共団体の意欲・実行力については、「フードバレーとかち推進協議会 農業部会」を通じた規制・制度改革の推進。

オ) プロジェクトの実現可能性については、農業研究機関や民間企業との連携体制の構築や今後の工業系の研究機関やテック企業の参入。

カ) インフラや環境の整備状況については、国内随一の食料基地や交通の要衝等としてのポテンシャル。

キ) 「革新的事業連携型指定」としてのプロジェクトの高価値性・革新性については、AI農業の開発・実証フィールドに適した北海道最大級の農業地帯であるという地域特性を活かし、推進協議会を核とする十勝19市町村の連携体制の下、これまで申し上げたような革新的プロジェクトを推進し、AI農業先進地を目指していくといった点で該当すると考えております。

説明は以上になります。

○中川座長 上野市長、ありがとうございました。

続きまして、委員の皆様からも御質問、御意見を伺えればと存じますが、いかがでしょうか。

安念先生、お願いします。

○安念委員 ありがとうございます。安念と申します。

この場には帯広畜産大学さんもお見えなのでしょうか。

○小山審議官 いらっしゃいます。

○安念委員 それでは、誠に素人くさい質問で大変恐縮なのですが、スライドの6ページに帯広畜産大学さんの寄与が書かれております。私、もちろん素人なのですが、貴学はもともと畜産を中心としながらも、今日のありようは、もう既に古典的な意味での畜産の枠を相当越えておられて、アグリカルチュラルテクノロジーズの大学であると私は認識しております。その延長線上なのですが、スマート農業系の研究例として、ロボットトラクタに対応した作業機の開発ということを書いておりますが、これは具体的にはどういうことを言うのかを教えていただければと思います。

それともう一つ、ロボットトラクタに対応した作業機の開発以外にも、何か今回のプロジェクトといいましょうか、御提案との関係でのもくろみといったものが、もしおありであれば、お教えいただきたいと存じます。

以上です。

○中川座長 それでは、帯広畜産大学様だと思いますけれども、お答えいただけますでしょうか。

○佐藤名誉教授 帯広畜産大学の佐藤と申します。

御質問ありがとうございます。うちの大学の簡単な説明から入りたいと思いますけれども、御存じのように、本学は、農業と畜産、それから獣医学を主体とした、国立大学では唯一の農業系の大学になっております。うちの大学の分野としては、食品とか、もちろん農畜産、獣医学、農業経済学、我々の担当している農業機械学、そういった農業に関わる全体を教育と研究のスタンスにしております。

その中で、特に私は農業工学、農業機械学を40年以上研究してきている者で、我々のところとしては、今から10年ほど前からロボットトラクタというものが、将来大規模農業に貢献するということで、メーカーさんと一緒になって開発研究を進めてまいりました。

具体的にどういうことをやっているかという話なのですが、ロボットトラクタというのは、トラクタというのはただ後ろにつけた機械を引っ張るだけの機械なのですけれども、水田農業と大きく違う点がございます。水田の場合は、トラクタはどういうところで活躍するかというと、田植えをするときの圃場の耕運作業にしか使いません。その後は田植機であるとかコンバインが登場するので、使うところはすごく限定されるのですけれども、畑作の場合は、資料にありますように、畑を耕すところから、それから肥料をまくところ、種をまくところ、その後の除草するところ、農薬を散布するところ、収穫するところということで、かなり広範囲に使われます。ですから、その中で耕運とかいろいろな作業に使うこのロボットトラクタというのは、いわゆるキーのマシンになってくるのです。

今回の例として書かせていただいているのは、我々も10年前からこの作業を行っていて、水田用のロボットトラクタはごく限られた作業しかできないのですけれども、畑作としては、先ほどお話ししたような多岐にわたる機械を装着しなければなりませんので、我々の研究レベルですけれども、かなり広い分野、いろいろな作業に対応できるロボットトラクタと作業機の開発を、私が全部やっているわけではないのですけれども、メーカーさんと協力しながら、そういうロボットトラクタに対応する作業機を開発しています。

この例としては、今、この地域で行うこういった国の事業もいろいろ動いておりますので、例えば芋を収穫するためのポテトハーベスタとか、最初に農作業を行うための、畑を初期的に行うためのプラウと呼ばれているものがあります。そのほかに、種をまく播種機と呼ばれるもの、それから、農薬を散布するブームスプレーヤという機械も、研究レベルではロボットトラクタに対応できるように開発を進めて実証しているところです。このような状況です。

○安念委員 どうもありがとうございました。私は北海道中央部の稲作地帯で生まれ育ったものですから、今、先生御指摘のように、トラクタの使用は案外、高いのだけれども大して使い道がないなというふうに農家の方もおっしゃっているのは聞いて育ったのですけれども、今教えていただいたように、畑作地帯では非常にマルチプレーヤーになるのだと、非常にキーとなる機械なのだということがよく分かりました。誠にありがとうございます。

○中川座長　ありがとうございます。

そのほかの委員はいかがでしょう。

本田議員、お願いします。

○本田議員　どうも御説明ありがとうございました。新しくこちらの会議に入れていただいた本田と申します。すばらしい取組を御説明いただき、意欲のあるところを見せていただいて、大変うれしい御提案だと思っております。

2つほどお伺いさせてください。1つは、気候変動が日本の農業に与える影響を考えたときの十勝の重要性という観点でございます。世銀で支援している農業の分野には、結構気候変動対応が多くございます。北海道産のお米が多く流通しているのを見ますと、日本の食料供給の確保という点では、北海道の重要性というのが非常に増しており、そこで生産性を上げることが重要なのではないかなと思っております。13ページにあるプロジェクトの先進性・革新性等にも関連するのではないのかなと思っておりますが、帯広市様及び関連の皆様はどうお考えでしょうか。2つ目に、労働生産性の向上に資するという点ですが、日本全国の中で北海道は農地の集積率が比較的高いので、資本生産性も高いと思っております。今回、このような形で集中的にやることで、さらに資本生産性が高まると思っております。

○中川座長　帯広市様だと思いますけれども、お願いいたします。

○小林農政部長　私、帯広市農政部の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、気候変動の影響に対する十勝の優位性というような御質問だったと思います。十勝はもともと北海道、北方ということで冷涼な環境で、いわゆる畑作四品というものを中心に栽培しております。近年も品種改良等によって、そうした気候変動にも対応し得る品種の改良、それから基盤整備によって、大雨とか干ばつといった気候変動にも対応できるような取組を進めております。あわせて、野菜類も、従前は北方ではあまり育たないと言われておりました割と南方系のサツマイモですとか、そういった類いのものを順次取り入れて栽培するという気候変動に対する適応の取組も進めながら、生産性を保ってきているところです。

○鈴木局長　労働生産性の話になりますけれども、十勝総合振興局の鈴木と申します。

労働生産性のことにしましては、今回御提案しています特区の実現によって、ロボットトラクタなどの人が介在しなくても使えるようなものが導入されるということで、今の地域の課題であります労働人口が減っている中での省力化で、少ない人間で機械にいろいろ労働してもらうことで、労働生産性は上がっていくことが期待できると考えております。

以上でございます。

○中川座長　本田議員、いかがでしょう。

○本田議員　ありがとうございます。

資本生産性について、定量的な分析があればお教えてください。日本は農協さんの活動もあって、各農家の皆様が機械を保有されていて、資本生産性が日本は若干低いというデータを見たことがございます。一方、十勝地区においては、多分、農地の集約化が進んでいるので、資本生産性が高く、今回のこれをやることによって、さらに高められるということであるな

らば、より一層意義が大きいと思っているのですが、何かそういうことに関してのお考えがあればお教えください。

○中川座長 帯広市様、恐らく資本生産性と本田議員がおっしゃっている部分につきましては、例えば、ロボットトラクタの公道走行を可能にすることによって、農家ごとにロボットトラクタを装備しなくても、公道を移動することによって、そういった資本の効率性を高めることが恐らく可能になるという意味で、今回の提案は資本生産性を高めるというようなことを含んでいるのではないかなと私は理解しているのですけれども、そのような理解でいいのかどうか、あるいは付け加えることがあるのかということにつきまして、帯広市様のほうから何かございましたら、お願いします。十勝総合振興局様のほうでも結構です。

○佐藤名誉教授 では、帯広畜産大学の佐藤がお答えします。

実は、この地域では、ロボットトラクタが、先ほど御説明があったように毎年導入が進んでおります。その一つの理由は、圃場の中でロボットトラクタを使うことによって作業員を減らすことができるわけです。そうすると、そこで労働生産性が上がる。今まで3人、4人でやっていた仕事を1人もしくは2人でできるということなので、そこで1つは労働の生産性が上がるということです。

ただし、この地域は比較的大規模圃場が点在しているものですから、農家の自宅から圃場まで移動するときに、ロボットトラクタは畑では無人で走ってくれるのですけれども、そこまで公道を走行していくときに人が乗って行ってしまうということです。そうなったときに、次の種とか肥料を持っていくときに、家にまた帰るということになると、また30分とかかけて戻らなければいけない。もしくは2人、3人で伴走してトラクタを持っていかなければいけないということになっています。いわゆる時間的な効率も悪くなるし、人員も多くなります。ですから、畑の中ではかなり労働生産性が高まっているのですけれども、点在している圃場があるものですから、そこまで移動する手段を、そこでも公道走行ができるようになれば、今まで2人、3人でしていたものを1人でできるということで、労働生産性、資本生産性が増すのではないかなと考えています。

○郡谷農政室長 帯広市の郡谷と申します。よろしくお願いいたします。

現在、北海道は、特に十勝においては90%を誇る農地の集積率という中で生産性の高い農業をやっておりますけれども、今回提案しておりますロボトラ並びにドローン、これをそれぞれ単体で持つことによる効率化もあると思うのですが、例えばドローンを地域の中で共同で持って効率的に農薬散布ということも、今後こういった規制が緩和されれば、よりドローンの利活用が加速されると思いますので、そういったことで一人一人の個人で持つということも当然ありかと思っておりますけれども、地域でそういったスマート農業機械を共同利用することで、資本生産性も向上するといったことが期待できると考えております。

以上でございます。

○本田議員 どうもありがとうございました。

○中川座長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

堀真奈美委員、お願いします。

○堀（真）委員 堀です。

本日はすばらしい発表をありがとうございます。ロボット技術、ICT、AIを使ったスマート農業、DXで、より少ない人手でも生産性を維持・向上していくという提案だと理解しています。先ほどまでの委員の皆さんからの質問の答えを聞いて理解はしたのですが、根本的な課題として日本全体の農業を考えると、高齢化して、労働力も減っていくことがあります。省力化していく、そして生産性を上げるということは重要だと思うのですが、そもそも論で、人を入れていくというか、若い人材確保、あるいはほかのエリアからの移住・転入でもいいのですけれども、新たな人材がこのスマート農業を行っている十勝に学びに来るといような循環があるといいかなと思ったのです。

これは帯広畜産大学さんにお聞きしたほうがいいかと思うのですが、もちろんトラクタとか機械があれば、そこまで教育をしなくても自動的に操作できるものなのかもしれませんが、従来とは農業のイメージを変えていくための活動など、努力をされているのか。あるいはスマート農業による人材確保や養成という効果も期待できるのか。今回の取組の中には、人材確保・養成のところがなかったかなと思うのですけれども、研究を行う上でも人材は必要だと思います。その辺を教育面、研究面でどのように考えているのかというのを1点お伺いしたいなと思います。

それから、もう一点は、北海道庁さんに伺ったほうがいいかと思いますが、札幌のGX/AIの金融・資産運用特区もあると思うのですが、それがあっても、それとは別にあって十勝で別の特区としてやっていくことについて多分意味を見いだされているのだと思うのですが、北海道さんとしては、どういうふうに自治体間の調整をされるのか、それぞれに関わって連携を進めていくつもりなののでしょうか。十勝総合振興局さんがあると思うのですが、エリアの中の連携の旗振りそのものは推進協議会をベースとするものなのか、その辺の連携、役割分担の在り方をどう考えるのか。そしてスケジュール感というか、もう既に10年以上前からロボトラは進んでいるということだったのですが、何をどの順番で、どういうふうに進めていくという見通しがあれば教えていただければと思います。

すみません。3点になってしまいました。よろしくお願いします。

○中川座長 それでは、お願いします。

○佐藤名誉教授 それでは、帯広畜産大学の佐藤と申します。

最初に御質問があった教育のことについてお話ししたいと思います。うちの大学も、まだスマート農業という科目名はないのですけれども、帯広畜産大学、それから北見工業大学さん、小樽商大さんと連携してまして、夏に、いわゆる選択科目なのですけれども、スマートAI農業の授業を実習体験も含めて1週間予定しております。

それから、この地域の農業者を対象にした社会人教育というものをやっております。デジタル農学寄附講座というものをつくって、年間50時間の講義と、視察を兼ねてロボットトラ

クタを含めドローン、それからいろいろなスマート農業に関する人材育成で地域のレベルアップを図るということです。

○上野市長 帯広市長の上野です。

農業者、若い農業の担い手をどう確保していくかということについてですが、例えばAI農業というものに限らず、我々の地域では、普段から農業への理解を促進するような小学校、中学校の授業の中においてそうした取組もしております。また、帯広市には帯広農業高校がありまして、例えば農家の息子さん、娘さんがそこに通っていたり、地域を挙げてしっかりとこれからも担い手を確保していこうという努力は、これまでも行ってきたところです。ただ、今後は、例えばテック企業だとかそうした新しい農業の形が見えることによって、若い人たちにとっても農業が魅力ある仕事になるように進めていきたいと思います。

○堀（真）委員 ありがとうございます。ぜひそのところを頑張っていただきたい。本当にスマート農業を産業として育成していくためにも、それを支える、少ない人数だとしても、若い人も含め、多様な方たちが参入していく環境が整備されるといいなと思います。そのあたりのノウハウをこの特区で検討、実証していただけるととてもいいなと思いました。

残りの2つの質問をお願いします。北海道庁さんですかね。

○加納副知事 北海道の副知事の加納でございます。本日はありがとうございます。

今のお話、GX/AI金融・資産運用特区が既に走っているのですけれども、そうした取組を進めていく中で、今回、十勝管内19市町村から、こういった特区についてやっていきたいというお話を受けました。我々としても、十勝は先ほど上野市長からもありましたけれども、今日では食料自給率1,300%ということで、北海道の中でも特に畑作、畜産を中心に、全国的にも大規模農業地域として地域を確立してきた地域であります。こうした中、十勝AI農業特区が出てきましたので、これも我々としてもしっかり提案すべく支援したところでありまして、十勝AI農業特区が創設された場合でも、まずは十勝地域において、特区制度を活用した取組が積極的に展開されることを目指していく。さらには、これを今度は全道の取組に移していく、さらには全国にということで、それぞれ農業の在り方が違うと思いますので、すぐに活用できるとは思いませんが、まずは十勝、そして北海道、そして全国という形でやっていきたいと思っております。

そして、GX/AI金融・資産運用特区もございますので、農業分野のみならず、様々なAIも含めて取組を全道でやっておりますので、こういった先進的な取組など、今回の十勝AI農業特区で得られた成果についても、北海道地域、そして全国に展開していきたい、このような形で十勝AI特区も進めていきたいと思っております。

○堀（真）委員 ありがとうございます。

今回の十勝特区の中だけでは、基本は推進協議会が中心でしょうか。十勝総合振興局さんとか、北海道のほかの部局とも連携しながらなのかと思いますが、具体的にどのように進めるのかをもう少し今伺えれば。

○加納副知事 今、推進体制が出ていると思いますが、このような形で、官公庁に加えて、

研究機関や我々も一緒にやっていくという形で思っております。事務局の中に我々も入っておりますので。

○堀（真）委員 なるほど。分かりました。ありがとうございます。

最後、スケジュール感というか、どこから何をやっていくのかとかが、もしある程度決まっていたら、教えていただければ。

○郡谷農政室長 帯広市の郡谷と申します。

今後のスケジュールにつきましては、既に各省庁から先ほど御説明した事務的な簡素化の通知等もいただいているところでございますが、まずは当面、今、喫緊に取り組みたいと思っていることは、無人ロボトラと有人トラック等との隊列走行の安全性検証、そして、ロボットトラクタと制御し合う作業機などのロボット農機の開発、この2点については、現在、内閣府の実証事業の活用に向けて応募申請をしているところでございます。採択された場合には、速やかにこの実証を行うことができるのではないかと考えております。

順次、まずはできるところから速やかに実証事業に取りかかりたいと考えております。

以上であります。

○堀（真）委員 ありがとうございます。分かりました。失礼いたします。

○中川座長 ありがとうございます。

ほかの委員の先生方はいかがでしょうか。

落合先生、お願いします。

○落合委員 御説明ありがとうございます。非常に意欲的に取組を進められようとしていて、非常にすばらしい御提案をいただいているように思っております。

私からも何点かお伺いしていきたいと思っております。まず1点目ですが、今回こういった形で提案をいただいている中では、制度改革事項でも11件ほど書いていただいております。これ自体、既に措置ができる見込み、全国区のものも含めて、そういうものが多く出てきておりますので、そういった取組が進んでいることや、提案をまとめていただいていること自体は非常にすばらしいことだと思っております。

一方で、毎回、特区の指定をさせていただくときにお伺いしていることは、やはり特区は一回指定していただいた後も継続的な評価もございまして、そもそも特区で行った事業を全国で規制改革として展開していったり、新しい提案を継続的に出していただくことが非常に大事な取組になってくるかと思っております。そういった意味では、今後、もちろん北海道庁の皆様にも御協力をいただくことはあろうと思いますが、今回御提案いただいた自治体で、どういう形で、今後も継続的にこういった規制改革提案や新しい事業実装を増加させていくような取組を具体的に計画されているか、についてお伺いしたいことがまず1点目です。

第2点目は、先ほども取組に関する組織体についてお話をいただいたように思っております。そういった中で、様々工夫をしていただいている点でもあろうかと思っておりますし、今後さらにテック企業、その他を含め、集めていかれる部分もあると思っております。

一方で、今回は必ずしも指定要件そのものではないと理解していますが、スーパーシティ

やデジタル田園健康特区の議論の際などには、やはり顔が見えるといいますか、どういう人たちが中心になっているのか、その人たちが様々なプロジェクトを統合的に、ある種の都市機能の全般的な向上につながるように考えているのかが評価のポイントになっていました。そういった観点で見たときに、今回、誰が中心人物になって引っ張っていただくのでしょうか。要するに、顔役になって様々な場面に出てきてお話をしていただくことも含まれると思いますし、考えていただくこともあると思います。これは過去の事例を見ておりましても、むしろ自治体の首長の方や、副市長など、自治体側の方であることもあろうかと思ひますし、一方で民間の人材ということもあろうかと思ひます。この辺りについて、まだ必ずしもこの人がというのは決まっていない点があるかもしれませんが、こういう人がというのをもしお考えになる点があれば、ぜひお伺いしたいと思ひました。

3点目は、今回、資料の中で書いていただいている中で、特に指定基準との適合性で、経済的社会的効果が期待されるということで、農業産出額が約3300億円、食料自給率1,300%を誇る十勝管内の農業の生産性向上、生産力強化等が図られるとあります。具体的にどのくらい、どのように産業が伸びていくのか、もしくは経済効果があるのかという点があり具体的に示されていないように思ひましたので、この点、具体化できる点がありましたら、ぜひお話しいただきたいと思ひておりました。

また、これは最後になりますが、実際にこういった開発実証フィールドを整備していくということで、地域の特性というか、大規模酪農地域であることや、移動に関してもハブになっている状況を生かしていただいていると思ひます。十勝自体のポテンシャルは非常にあるのと思ひますが、一方で、特区の中での取組は、展開できる部分は全国にも展開していきたいという部分もあります。そういった中では、今回実証していただくものの中で、もちろん北海道内に普及していくだけでも素晴らしいことだと思ひておりますが、できるならば全国でも活用できるような話をつくっていけると、よりよいのだらうと思ひております。より全国的にも活用できる可能性がある内容はこういう取組である、と御念頭に置かれている点があれば、ぜひ教えていただきたいと思ひました。

以上4点です。

○中川座長 恐らく帯広市様ではないかと思うのですけれども、御回答をお願いします。

○小林農政部長 では、帯広市の小林です。

まず1点目の全国展開に向けてどうやってやっていくのか、また、新たな提案の考え方なのですけれども、まずこの辺の取組につきましては、地域で協議会を立ち上げておりますので、その中には農協とか帯広畜産大学も入っていますし、関係機関をほぼほぼ入れていますので、そういった関係者の中で、この次の展開、こういったことができるかというのはしっかりと現場の声も吸い上げながら考えていきたいというふうを考えております。

また、専用のホームページを立ち上げまして、そうした取組について発信していきたいと思ひています。その中には、自治体だけではなくて、例えば企業などもいろいろと情報を検索していただいて、帯広市の取組、それから19市町村の取組、こうしたことを全国に発信す

る中で、様々な企業のほうにも関心を持っていただいて、次につなげていけたらなと考えております。

次に、3点目の経済効果の部分なのですが、先ほど委員の方もおっしゃられたとおり、農業産出額とか自給率、この辺もございますけれども、今回の特区の背景として、今後、人口減少、それに対して担い手が大幅に不足するのではないかという危機感が根底にありますので、例えば、仮に農業者が減少していった場合に、耕作放棄地というものが増えていくわけですが、たとえ担い手が減少した場合であっても、AI農業を活用することで、既存の広大な農地をしっかりと耕作していったら、耕作放棄地を出さないということも一つの目安かなと考えております。

また、農業産出額の目安なのですが、これは年々上昇しているところではあるのですが、一方で、生産資材価格がかなり上がってきています。農林水産省のほうで農業物価指数とかを出していただいています。たしか今、資材のほうが令和2年対比で40%ぐらい上がっています。それに対して、農産物の価格がそこまで追いついていませんので、今後、なるべくそれが農家にとって赤字にならないように、いわゆる農業交易条件指数がなるべく1あるいはそれ以上に向かうようなことを目標として取り組んでいきたいなと考えております。

私からは以上であります。

○上野市長 帯広市長の上野です。

2番目と4番目の御質問についてですが、まず2番目、誰が中心となって行っていくのかということですが、協議会自体の代表は私が務めております。外側に向けていろいろな発信をしていく、内容にもよりますが、AI農業特区全般について何か発言をと求められるときには、私自身が責任を持って中心となるということになろうかと思います。ただ、個々の技術については、大学、研究機関、テック企業など、様々な方々が中心になり進めていくことになろうかと思います。協議会自体は私が責任を持って行っていくことになります。

そして、4つ目ですけれども、今回の規制・制度改革が全国にどのような広がりを期待しているかということですが、おっしゃるとおり、ロボットトラクタの公道走行というものが日本全国に広がるかと言われれば、それは大規模な農業を展開している地域しか当てはまらないかもしれませんが、例えばドローン飛行における幹線道路横断に関する規制緩和というのは、ドローンの話でありますので、この地域での実証、実装を踏まえた上で、日本全国でも展開をしていただけるものではないかなと考えております。

以上です。

○落合委員 ありがとうございます。それぞれ御説明いただきました。継続的に御提案いただけるのを、どういう形で保っていくのかという点は、実際に評価に当たって重要な点であると思いますので、しっかり整備していただくことは重要ではないかと思います。改めて可能な範囲でできる限り、今回の提案に限らずですが、今後どうしていけるかをぜひ考えて、できる部分については早めに整理していただければと思っております。

以上です。

○中川座長　ありがとうございます。

そのほかの委員、いかがでしょうか。

私のほうから1点質問をさせていただきたいのですが、非常に先進的な御提案をいただいております。個々の御提案につきましては、素晴らしいものなのですけれども、先ほどの堀真奈美委員の質問とも絡みますけれども、結局、個々の提案を進めて、どのようなスケジュールで進めていって、どのような地域を構築していくのかということを経営的に表現したり、決めたりする姿は提供されているのでしょうかという御質問をさせていただきます。

通常は、そういった表現をする手段は、地方公共団体の総合計画などで位置づけることはできるのですが、今回は十勝地域の19市町村が連合してこの特区を構成するということなので、地方公共団体を越えた取組について、総合的な絵姿というのはどのようにして表現していけるのでしょうかという御質問を、帯広市様なのか、それとも十勝総合振興局様なのか、道庁様なのか、ちょっと私は分からないのですが、どなたかにお答えいただければありがたいと思います。

○上野市長　帯広市長の上野です。

我々、十勝地方にある19市町村というのは、例えばこれまでの十勝定住自立圏の形成等のように、帯広市を中心として、十勝管内の町村が同じ目的を持って様々な提言あるいは行動をしてきた地域であります。個々の自治体の総合計画という話もありますが、そうしたものを越えて今までやってきている特有の地域であると考えています。我々19市町村が一体となって今回提案をさせていただくというのは、我々にとっては特別なことではないというか、「十勝は一つ」という言葉もあるように、一体となって取り組むことで、この地域に資するものとなり、またそれが北海道、全国へとつながっていくという認識で、今回御提案をさせていただいているところです。

○中川座長　分かりました。ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

上野市長、十勝管内19市町村の関係者の皆様、ワーキンググループ委員をはじめとする有識者の皆様、本日はありがとうございました。

本日、上野市長から御説明いただきました御提案は、十勝が有する高いポテンシャルを生かしながら、AI農業研究の拠点化や、AI農業の開発・実証、実装環境の整備を通じて、AI農業先進地を実現する取組として非常に意義のあるものであることが確認できました。

一方で、有識者の皆様からは、上野市長から「十勝は一つ」という言葉がありましたけれども、規制・制度改革が実現した後の地域全体の姿やそれに至るスケジュールについて、より具体的に示すべきという声も上がりました。あるいは、今回いただいている提案を強力に進める、さらには新規提案を継続して行っていくリーダーシップの在り方も含めた組織の構築の重要性、そういったようなことについての御指摘をいただいたところであります。十勝管内19市町村におかれましては、こうした御指摘を踏まえながら、さらなる取組を進め

ていただきたいと思います。

本日のヒアリングを踏まえ、国家戦略特区等ワーキンググループとして、十勝管内19市町村の指定に関する意見の取りまとめに向けた検討を進めてまいります。

ほかに御発言を求められる方はいらっしゃいますでしょうか。

最後に、高橋事務局長からも御発言いただきたく、よろしくお願いいたします。

○高橋事務局長 ありがとうございます。内閣府地方創生推進事務局長の高橋でございます。

本日は、上野帯広市長から、十勝AI農業特区につきまして、十勝管内19市町村における取組の概要を御説明いただきますとともに、ワーキンググループ委員の先生方をはじめとする皆様方に変活発な御議論を賜りました。誠にありがとうございました。

内閣府といたしましても、本日の御議論を踏まえ、国家戦略特区諮問会議に向けて関係省庁あるいは関係の皆様と連携し、さらに検討を進めてまいりたいと考えております。

改めまして、上野市長、また北海道の加納副知事、また先生方、関係者の皆様、本日はお忙しいところをありがとうございました。また引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○中川座長 高橋事務局長、ありがとうございました。

以上をもちまして、国家戦略特区等ワーキンググループヒアリングを終了いたします。関係者の皆様、ありがとうございました。